

可搬型階段昇降機／浴室用・浴槽内リフト／立ち上がり補助いす

階段昇降を安全におこなうリフト

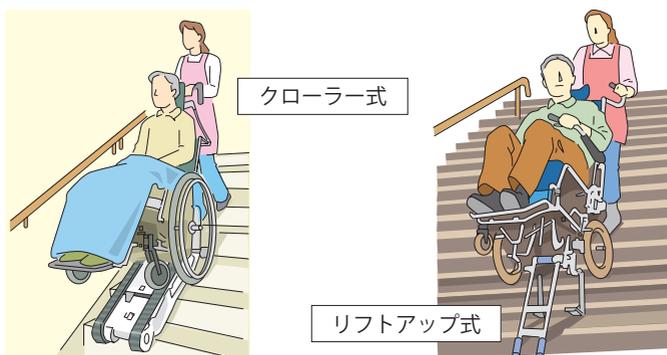
可搬型階段昇降機は介助者がスイッチで操作し、屋内外で階段昇降を安全に行うためのリフトです。階段の昇り降りが不安定な人や困難な人が導入対象者です。可搬型階段昇降機の種類は駆動方式でクローラー式とリフトアップ式の2つに大別できます。

キャタピラで走行するクローラー式はバランスが安定していて、また軌道も予測しやすいので介助者が扱いやすい長所をもちます。リフトアップ式は下部のアームやタイヤが段差を一段ずつ昇降します。クローラー式と比較して小回りが利き、狭いスペースや急な階段などの環境でも利用しやすいタイプです。ただ、どちらにしても段差角度や階段幅、踊り場のスペースなど使用環境と介助者の操作能力を十分にアセスメントして、選定や指導を行う必要があります。

導入前、使用上の留意点

マンションの通路など共用部分に設置する場合には通行の妨げにならないよう導入前にきちんと検討します。また斜めに走行させると傾いて事故に繋がるおそれがあるため、操作者には階段に対してまっすぐ垂直に走行するよう注意を呼びかけましょう。

可搬型階段昇降機



可搬型階段昇降機の操作者には操作講習の受講が義務づけられていて、指導を行う専門相談員にもメーカーなどの講習を受講して「可搬型階段昇降機安全指導員」の資格認定を受けている必要があります。

浴室で利用するリフト

浴室用リフトは介護者が抱きかかえることなく利用者を吊り上げて、移乗や浴槽の出入りができます。立位や座位での浴槽の出入りが困難な人が対象となります。スイッチ操作による電動駆動の製品が一般的で、アームの関節部がひとつだけの1軸タイプ、より複雑な動きができる2軸タイプ、またレール上を移動する面レールタイプなどが揃います。2軸タイプと面レールタイプは、浴室の広さによりりますが、脱衣室まで移動することも可能です。

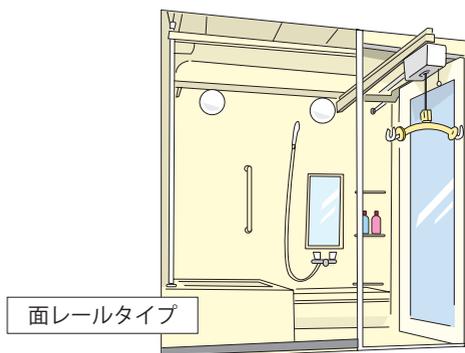
入浴動作をシミュレーション

アセスメントでは▽着脱衣を行う場所▽介助者が洗体を行う場所へ移動する際の動線▽入浴後に車いすやシャワーキャリーで移動するときに水滴で床が濡れてしまうこと▽ベッドからシャワーキャリーに移乗させる吊り具と入浴中の吊り具をどうするか——など入浴動作全般をシミュレーションしましょう。

浴槽での立ち座りを補助するリフト

浴槽に取りつける浴槽内リフトは座面部分が上下に昇降し、浴槽内での立ち座りを補助するためのものです。設置方法によって据置き型と取りつけ型の2

浴室用リフト



タイプに分けられます。

座面後方に駆動部分がついている据置き型の場合、浴槽が小さいと真ん中あたりに座面がきてしまうので、浴槽の大きさに注意しましょう。一方、取りつけ型は座面位置が浴槽の背もたれに近いので、比較的ゆったりと入浴できます。取り外しは据置き型の方が比較的容易で、同居家族が入浴するときには自分で取り外すことも可能です。

また浴槽内リフトを利用する際、座位で浴槽をまたぐ必要があるため、介助者は利用者の座位バランスに応じて介助を行う必要があります。

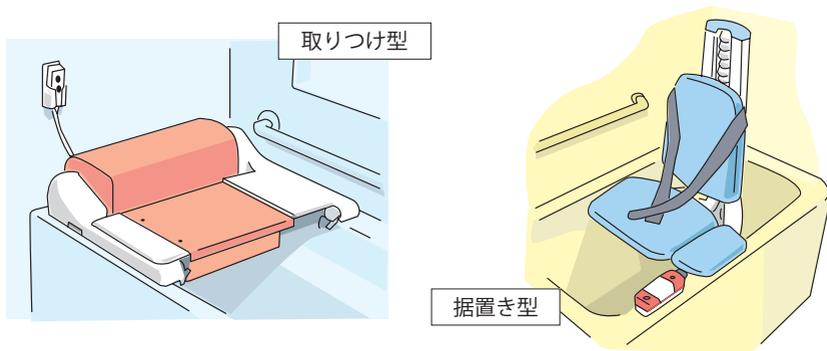
立ち上がり動作を支援するリフト

立ち上がり補助いすは、いすや床からの立ち上がりを補助する福祉用具です。麻痺や筋力低下などの要因で立ち上がりが困難、または不安定で転倒のおそれがある人が導入対象です。

立ち上がり補助いすには座いすタイプといすタイプがあります。座いすタイプは電動で座面が昇降する座いすです。座位保持能力が低下している利用者には、座面角度を調整できる製品もあります。座位バランスに応じて選定するとよいでしょう。従来の座布団と比べると座面が高いものが多く、ちゃぶ台や座卓などには足が干渉するかもしれませんので確認が必要です。また背もたれが後ろに傾く製品では後方のスペースも確保しておきましょう。

いすタイプは座いすタイプ同様、座面が昇降するタイプのほかに座面が傾いて立ち上がりを補助する製品もあります。また座位バランスが低下した高齢者

浴槽内リフト



や長時間の利用者には、背もたれの角度を調整できるものもあります。

選定では利用者の立ちあがりに必要な筋力、バランスなどの把握、関節拘縮の有無も確認しましょう。また普段は、いすに座っているのか、床に座っているのかなど利用者の生活様式をみる視点も重要です。

利用目標を立ててモニタリングで達成度を確認

利用前に本人や家族と相談のうえ、立ち上がり補助いすを利用してどのような生活を実現したいのか、利用目標を設定しましょう。ただ単に立ち上がりを補助するだけの用具と捉えずに「ベッドから離れた生活を送る」など目標を立てて、モニタリングでは目標にどれだけ近づけたかを確認しましょう。

ワンポイント アドバイス

今回、解説したような一般的に目にする機会が少ない福祉用具では、利用することでどのような生活を送ることができるのか、利用者がしっかりとイメージできるよう説明できる能力が必要です。リフトの単なる取扱い説明ではなく、福祉用具を使うことでどのような生活が送れるようになるのか、福祉用具専門相談員として最も大切な知識と説明能力が求められます。

立ち上がり補助いす



いすタイプ



座いすタイプ

T Sテクノロジーが製造、近鉄スマイルサプライが06年7月からレンタルの取扱いを行う可搬型階段昇降機。

車いす一体型の同品は、センサが階段の段差高さを検知し、その高さに応じた昇降動作を行う。これにより、昇降時の上下動が少なく本人・操作者ともに安全・快適に昇り降りができる。

主輪が階段踏み面の縁にかかると、自動的にブレーキが働き、車体の滑り落ちを防止する。また車体が前後に傾きすぎている時や、段差から離れている場合には、昇降動作をしない安全機構も備える。

昇降速度は3段階に切り替えられ、最も低速時には1段ごとに停止し安全に昇降できる「シングルステップモード」を選択できる。

同品を利用できる階段は、1段あたり高さ21cm以下、奥行き24cm以上、横幅80cm以上。

近鉄スマイルサプライでは、関西、東海、関東地域で、同品のレンタル提供を行っている。

問合せは近鉄スマイルサプライ (0120・117・630) まで。

「トランサポータ」



T S
テクノロジー

座面の昇降とスライド機能が特長の電動昇降機です。

電動操作により、座面を前方へ165mmスライドさせることができ、特に冬場、座ったままでこたつへの出入りが楽に行える。ベッドや車いすなどへの乗り移りがしやすいよう、座面は左右にそれぞれ90度回転させられる。

座面の高さは160mmから570mmまで調整でき、最大410mmのストロークを誇る。本体後部にある上限リミットを調整することで、最大高さを設定でき、座面が上がりすぎることによる転倒事故を防ぐ。

昇降・スライドする際には、挟み込みや巻き込みを防ぐ安全機構を備える。

座面横のレバーを操作すると、背もたれを95～120度の間でリクライニングさせることができる。アームレストは跳ね上げられ、幅の調整も可能。

税込価格は36万5400円。

同社ではこのほか、キャスター付きの「ココロ」、座面高さ1.5cmと低床の「ローザ」など、幅広く展開している。

問合せは同社 (0120・49・0002) まで。

「独立宣言 暖らん」



コム
ラ製作所

専用車いす「J-COMPACT」を装着して使用する可搬型階段昇降機。門扉から玄関まで階段がある一般家庭やエレベーターのない集合住宅、デイサービスの送迎などで活用されている。

昇降時の適切な角度を操作者に振動で知らせる「角度センサ」を備え、傾き過ぎを防ぐ。昇降時に交互に階段をとらえる車輪と昇降フットに加え、本体下部には転落を防ぐ「セーフティアーム」を装備し、安全性を確保。昇降フットは、安定した着地ができるよう、先端をL型とし、バランスを保った操作ができるようサポートする。

階段のへりにキャスターがかかると、自動的に安全ブレーキが働き、滑り落ちを防ぐ。

専用車いすは、J-MAX から取り外し手動車いすとしても使用できる。

本体部分 (J-MAX) は簡単に分割でき、自動車のトランクにも積み込める。

急な階段や踊り場が狭い場合にも対応する全幅485mmのコンパクト型「J-SEATモデル」もある。

問合せは同社 (0120・725・294) まで。

「J-MAX」



ナ
ブテスコ